

第2回 土壁再生シリーズ公開研究会

1300年の歴史を持つ土壁の様々な優れた特性に対する正しい知識と最新の研究成果を学び、京都を代表する土壁文化を住まい・まちづくりに活かして次世代につなげていくための各種課題の解決策を協働で研究し、成果を社会に還元するシリーズ公開研究会第2回を開催いたします。

同活動は、市民、建築設計者、施工者、左官技能者、研究者、行政等のさまざまな分野のメンバーによる協働研究体制で取り組む予定です。お気軽にご参加下さい。

第2回「土壁をさまざまな用途、構造、規模の建物に使えるようにするための防火上の課題と対策」

土壁をさまざまな用途、構造、規模の建物に使えるようにするための防火上の課題と、土壁の木造建築が集積した京都のまちの木と土の文化を活かした防火対策の要点を様々な視点から学ぶ。

1. 「土壁、木造建築をさまざまな用途、規模の建物に使えるようにするために」

長谷見 雄二 早稲田大学教授

最近の研究成果として、土壁の不燃材料性能の検証実験の他、大規模木造建築(寺の本堂等)の広葉樹の燃えしる設計に向けた防火実験、木造3階建て学校の防火実験の成果や文化財の火災事例等の紹介を通して今後の課題と実用的な防火対策を考える。

2. 「京都の木造建築の防火対策の要点を最近の火災事例から学ぶ」

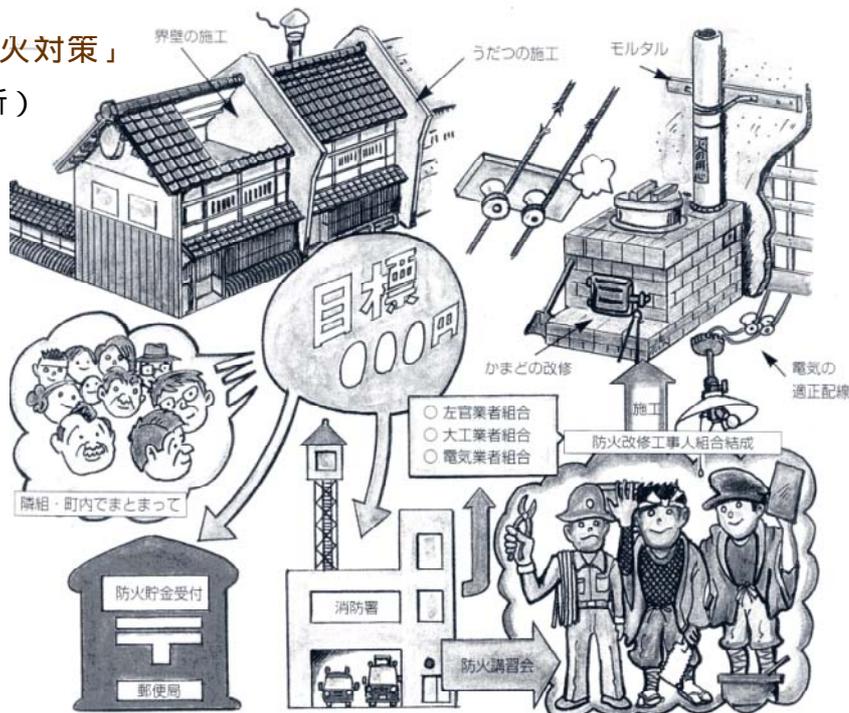
奥谷 博司(京都市消防局警防部調査課課長)

近年の火災事例から京都の土壁の木造建築の防火対策の要点(例:特徴的な火災性状、延焼経路、建物対策、延焼防止対策、暮らし方その他)を学ぶ。

3. 「先人に学ぶ京都のまちの防火対策」

武田真理子(悠計画研究所)

京都の木と土の文化を活かした安心・安全まちづくり手法を、戦時中に戦火から京都を守るために市の補助事業で防火改修をした町家の実態調査を通して考える。



京都のまちを火災から守るために、まちぐるみで貯金をして防火改修を促進した消防局の防火貯蓄運動(昭和34年)-中京消防50年のあゆみ刊行委員会、「中京消防50年のあゆみ」、2000より-

会 場 西陣ヒコバエノ家
京都市上京区^{かみたちうりどおりじょうふくじ}上立売通^{うばがとうざいちょう}浄福寺西入ル姥ヶ東西町632

参加費 無料、但し、資料代実費 500 円、
なお研究会終了後に同会場で懇親会を開催します(参加費 500 円)。

定 員 50 名(参加申込み先着順)

参加方法

7/23(月)迄に、お名前、所属、電話・FAX番号、メールアドレス、懇親会参加の有無を明記の上、FAXまたはメール、電話で下記にお申し込み下さい。
お申込みと同時に参加受理とさせていただきます(ご連絡は省略させていただきます)。
研究会のワーキングメンバーとしてご協力頂ける方はその旨も併記下さい。

参加申込先 関西木造住文化研究会(略称 KARTH:カース)

TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725

E-mail info@karth.sakura.ne.jp <http://karth.blog13.fc2.com/>

京都市上京区上立売通浄福寺西入ル姥ヶ東西町 632

共 催 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

協 賛 一般社団法人 日本建築学会近畿支部、社団法人 京都府建築士会、
一般社団法人 京都府建築士事務所協会

後 援 京都市、京都府

その他 会場には駐車場はありません。



会場の土壁の町家
(日本で初めて実験で防火・耐震改修の有効性を検証した町家)



会場

会場への交通アクセス(角地、お地蔵さんのある家、東隣:月極駐車場)

バス停「今出川浄福寺」又は「千本上立売」、「千本今出川」より徒歩 5 分

JR 京都駅より(所要時間 約 40 分)

地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3 番出口を出た後、交差点の東側バス停から今出川通の西行きバスに乗り、「今出川浄福寺」下車
市バス利用の場合:A3 の 206 番乗車、バス停「千本上立売」下車、
または B2 の 50 番、101 番乗車、バス停「千本今出川」下車



今後の研究会の予定 (午後 1 時半 5 時、開場:午後 1 時、会場:第 2 回と同じ)

第 3 回「優れた耐震性の公的評価を得るために」 9/30(日)

京都の土壁は実験では高い耐力を持つことが確認されながら、建築基準法の告示仕様に適合していないため、法令上の評価は低く、一般によく使われるようにはなっていません。

そのため、土壁の優れた耐震・耐久特性が公的に評価されるための具体的な方法を学びます。

第 4 回「土壁の手入れと地震後の補修・補強方法」 11/25(日)

土壁は塗り重ねたり、壁土を落とした後にその土を再使用して塗り直すこともできるため、適切な設計・施工と定期的な手入れをすれば性能が半永久的に持続し、耐力も低下し難く、長寿命の住まいにできます。地震で損傷しても壁土を落として適切に補修・補強をすれば再使用できます。その要点を学ぶと共に、知識不足、修復技術者不足によって地震時に土壁文化、木造伝統文化が一気に消滅するのを防ぐための「土壁修復ネットワークの構築」に取り組む予定です。

第 5 回「土壁の住まいの断熱性を高める」 平成 25 年 1/27(日)

自然材料で作られた土壁は、調湿性、CO₂ やホルムアルデヒドの吸収効果、抗菌性、蓄熱性等のさまざまな優れた特性を持ち、再利用・廃棄後は土に還ります。これらの特性を活かして土壁の住まいの断熱性を高め、地球環境にも負荷をかけずに健康で快適な生活を送るための要点、及び土壁を外壁や外廻りに使う場合の設計・施工・メンテナンスの要点を各種事例を通して学びます。